

## 外部環境の不透明感が上値を抑えるも下値は限定的で、膠着感続く

2010年3月23日(火)

第一生命経済研究所 経済調査部  
副主任エコノミスト 人見 小奈恵

TEL 03-5221-4523

e-mail: hitomis@dlri.dai-ichi-life.co.jp

### 米医療改革法案の下院通過を好感して、ヘルスケア関連株が上昇

インド中銀による予想外の利上げを受けて、アジア株は総じて軟調でした。インド準備銀行（中央銀行）は、レポ・レートとリバース・レポ・レートをそれぞれ引き上げました。来月予定されている定例の金融政策決定会合を待たずに前倒しで実施したことから、市場ではサプライズとなりました。同国では2月の卸売物価指数が前年同月比+9.9%と大きく上昇するなど、食料を中心に物価が高騰しており、2008年7月以来、1年8ヶ月ぶりの利上げに踏み切りました。市場では、新興国中心に金融引き締め懸念が根強く、株式相場の重しとなりました。

欧州株式相場は、ギリシャの財政赤字問題に対して、25-26日に予定されているEU首脳会議でユーロ圏各国による支援合意に懐疑的な見方が広がり、銀行株中心に相場を押し下げましたが、オバマ米大統領が推し進める医療保険改革法案が米下院で可決したことから医薬品株が買われ、ほぼ変わらずで引けました。一方、債券市場ではギリシャの10年国債利回りは2月下旬以来の水準まで上昇し、ドイツ国債利回りとのスプレッド差は350bp程度に達したほか、為替市場ではユーロも対ドルで軟調でした。

米国株式相場では、インド利上げやギリシャ支援問題の混迷等を背景に軟調に推移する場面もありましたが、ヘルスケア関連株の上昇や、投資判断引き上げ等の個別材料に支えられ、結局反発して引けました。

米医療保険改革法案が成立する運びとなり、国民皆保険実現に向けて大きく前進しました。米国政府は10年間で9,400億ドルの財政支出を行い、3,200万人の保険未加入者に保険加入を促し、加入率を95%に拡大することを目指すことになり、市場では病院や医薬品等への需要が高まるとの思惑からヘルスケア関連株中心に好感されました。

### 膠着感漂うも、外部環境の地合の悪さに連られて小幅安

国内株式相場は小幅安で始まりました。その後はすぐにプラス圏へ転じましたが、日経平均株価の値幅は30円に満たず、ほとんど動きませんでした。為替市場ではやや円高基調に推移していたほか、中国株も軟調だったことから、後場は上げ幅を縮め、マイナス圏に転じました。ただし、前週同様、市場参加者が少ない中、値動きは乏しく、日経平均株価の値幅は日中を通して50円程度と、終始方向感の乏しい展開でした。好業績期待や個別の好材料等を背景に電機セクター中心に相場を支えましたが、内需関連株が弱く、相場の重石となりました。

アジアの株式市場では概ねプラス圏で推移していましたが、中国株が軟調に推移し、米株先物や為替市場ではリスク回避的な動きが見られるなど、中国株の動向を意識する動きが感じられました。先週末のインド中銀の緊急利上げを受けて、中国などの新興国中心に利上げ懸念が高まっていることや、ギリシャの財政赤字問題について不透明感が強い中、EU首脳会合が控えていることが積極的な売買を手控える一因となっているように思われます。また年度末が近づいているという季節的な要因も薄商いの一因と思われます。ただし、企業業績やファンダメンタルズの改善等を背景にリスクを抑制する動きも見られず、様子見色の濃い展開となっています。

以上